

弘前大学と 地域づくり

VOL.
10

2018



学位論文
公開審査会



むつ市
公開セミナー
(エクスカーション)



地域づくりシンポジウム
&
ワークショップ



地域づくり
インターンシップ
(平内町)

授業



CONTENTS

- ① 地域社会研究科とは
- ② 地域社会研究科の“教育”と“研究”
- ③ 地域社会研究科の“地域との連携” “地域での実践”



地域社会研究科とは

研究科長あいさつ

地域との連携は出発点でしかない

弘前大学大学院
地域社会研究科長

北原 啓司



弘前大学大学院地域社会研究科は、その名称の通り、地域社会との関係性をさらに強めながら、研究および地域を元気にする活動を数年来続けてきております。青森県との「地域づくりインターんシップ」や「あおもりツーリズム創発塾」といった受託研究・事業を地域の現場で進めることによって、地域社会研究科のアイデンティティとも言うべき実績を積み上げることができており、次年度以降の事業展開も大いに期待されるところです。このような実績をもとに、弘前大学出版会からこのほど著書を出すこととなったこともうれしい限りであり、これまでに引き続き、今後も様々な受託研究を積極的に手がけていきたいと考えています。

また本研究科の場合、学位取得後にも研究に取り組む、あるいは単位取得後に引き続き学位取得を目指す「客員研究員」が数多く在籍しています。地域との連携による研究プロジェクトにおいて、それぞれの力量を十分に發揮していただいており、研究科長としても大変心強いところであるとともに、これらの活動が学位取得ためのケーススタディとなる場合もあり、活発な研究活動に直結している点は喜ばしく感じられます。

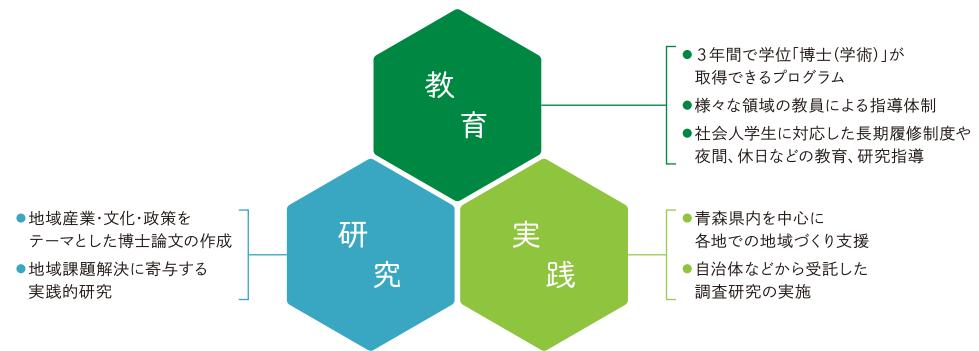
さらに2016年度からスタートした、大学院レベルの授業を地域に公開する「地域社会研究科公開セミナー」は三年目を迎え、今年は教員の研究フィールドでもある秋田県大館市と青森県むつ市で開催しました。研究や地域づくりの現場に出る形で、また地域の方々のお話をじっくり聞く機会を得ることによって、本研究科ならではの研修の機会を設けることができており、今後も継続してゆきたいと考えています。

この数年で一定程度、地域との連携を積み上げることができましたが、これはゴールではなく、やっとスタートラインに立てたことを意味します。連携に満足せずに、眞の地方創生を目指した実践活動を地域社会とともに展開し、またそれを全国に向けて発信していくこそが、我々研究科に課せられたミッションだと自負しております。連携から次のステップにシフトしていく地域社会研究科の今後の活動に、どうかご期待ください。

高度専門職業人の養成

地域社会研究科は、活力ある地域社会の実現に積極的に貢献することを目的に、地域が抱える特有の課題に具体的に対処する人材を養成し、実行性のある研究成果を生み出す教育研究機関として2002年度に設置された博士後期課程の研究科で地域産業研究・地域文化研究・地域政策研究の3講座から構成されています。

働きながら在籍できる環境を整えていることが特徴で、3年間の学習と研究及び博士論文の作成によって「博士(学術)」の学位を取得できる指導体制となっています。さまざまな分野で活躍中の社会人も多数在籍しており、修了生はそれぞれのフィールドで高度専門職業人として活躍しています。



地域との連携

地域社会との関係性が高い本研究科では、受託研究や受託事業を通じて自治体関係者や地域住民との連携を強化し、研究科教員のみならず、大学院生およびOB・OGとともに地域課題解決にむけた取り組みを実践しています。



地域社会研究科の“教育”と“研究”

教育課程と授業

3年間で学位(博士)が取得できるプログラムで、「必修」、「選択科目」、「演習」、「特別研究」の授業科目による授業、並びに「研究指導」からなる地域政策立案能力志向型の教育過程となっています。

また、社会人学生が多数在籍している本研究科では、社会人学生の実情に応じた夜間、休日などの教育研究指導体制をとっています。

授業紹介① 地域政策形成論(必修)

准教授 土井 良浩

1960年代に市民・住民運動が起こって以来、行政の計画づくりへの市民参加、市民と行政の協働事業の普及など、地域政策は中央集権下で進められるものから地方自治への移行を経て、市民の生活基盤やニーズに基づきつくられ実行されるものに変化しつつあります。この授業では、現代における市民主体の地域政策づくりの考え方や手法を習得することを目標としています。各回の前半部分では、市民主体の地域政策づくりの歴史的展開や市民参画の仕組みなどにかかる講義を行います。後半部分では、市民が主人公となる地域政策づくりの現場で必要な「ファシリテーション」の考え方や「ワークショップ」の基本的技術習得のための演習を行っています。



演習の様子(ディスカッション)

演習の様子(プレゼンテーション)

授業紹介② 調査方法論(選択科目)

准教授 平井 太郎

互いに研究方法もフィールドも異なる大学院生のみなさんが「地域社会研究」としての共通の方向性を共有できるように、同じフィールドスタディをしたり、同じ方法論をもとにした研究報告をしたりする授業です。

フィールドスタディでは青森県鰄ヶ沢町や七戸町などを、また方法論では『「新しい野の学問」の時代へ』などをとりあげ、それぞれでの学びが博士論文の主要な構成要素に直結していきます。



フィールドスタディの様子

授業紹介③ 研究方法論(選択科目)

教授 佐々木 純一郎

研究論文とは、読者に研究内容を説明するものです。博士論文ともなれば、数百ページの分量になる場合もあります。膨大な分量になると、その一部分だけをみれば説明ができるとしても、全体の最初と最後がうまくつながらないという困った事態が生じることもあります。読者に説明する前に、まず書き手の側が研究内容を明確に整理することが大事です。地域社会研究科には多くの研究分野がありますが、どのような研究分野にも共通する土台が研究方法論です。すでに研究能力に自信がある方でも、初心に戻って学問を究めていただければ幸いです。



Skypeを用いた遠隔授業
(PC画面は仙台市在住の社会人学生)

博士論文題目一覧

※2002年の研究科設置以来、様々な分野の学位論文が提出され、博士(学術)取得者は40名を超えてます。

地域産業研究講座
地域文化研究講座
地域政策研究講座

| | | | | | | |
|-------|--|---|--|--|--|---|
| 2004年 | 「ナーシング・リスクマネジメント」の現状分析を通じた「看護倫理」の役割に関する研究 --精神科看護の現場に焦点を当てて-- 石崎 智子 | 看護者の倫理的感受性育成に関する研究 工藤 せい子 | 農業地域における自然環境管理の研究 --岩木川下流部のオオセッカ繁殖地を事例として-- 竹内 健悟 | 少子高齢化社会のホスピスに関する研究 --中国ホスピスへの伝統文化の導入を焦点に-- 張 長安 | 青森県の転作水田におけるアビオスの展開に関する研究 小笠原 康雄 | 地域振興策としての整備新幹線構想を持つ問題点と可能性 --東北新幹線・盛岡を中心とした-- 櫻引 素夫 |
| 2006年 | 高齢社会移行期における中国の高齢者教育の現状と課題 --都市部老年大学を中心に-- 程 栄華 | 日本近世国家と蝦夷地アイヌ社会の関係秩序 --十七世紀後半から十九世紀半ばまでの紛争と危機を中心に-- 市毛 幹幸 | 近世-近代における鉱山と周辺地域に関する研究 土谷 純子 | 俳句の地域性と国際化 --台湾俳壇を中心に-- 沈 美雪 | 社会教育における「婦人教育」の衰退とその要因 --男女共同参画及び生涯学習との関係を中心に-- 一條 敏子 | 岩手県経済の安定性・定量的研究 --地方自治体の地域産業政策の展開 野崎 道哉 |
| 2008年 | 養護教諭の慢性疾患の子どもへの支援に関する研究 --因果的構造モデルの構築-- 葛西 敏子 | 地方社会における一次産品を中心とした地域ブランドの形成手法に関する研究 --地場産業の活性化を視野に入れた地域ブランドの価値と形成手法の考案を中心に-- 石原 健士 | Education System Innovation for Regional Economy and Social Development: Revitalization of Lowell, Massachusetts 清 剛治 | 要支援親子への支援の「つなぎめをつなぐ」 保健師の活動に関する研究 --3歳児健診から就学まで-- 北宮 千秋 | リンゴ搾汁残渣の新規用途開発に関する研究 高橋 国 | 土木リテラシー促進に寄与する広報媒体活用の研究 --「土木の繪本」と「土木偉人アニメーション映像」による展開-- 緒方 英樹 |
| 2009年 | 道徳性を育むための「形成」過程の創造と道徳の時間の位置づけに関する研究 毛内 嘉威 | 「介護実習」をめぐる学校と施設の協働関係の構築に関する研究 --福祉系高等学校における「介護実習」への提言-- 田中 泰恵 | 医療通訳の現状と課題に関する研究 --地方都市における医療通訳の必要性と認定制度の整備に関する提言-- 工藤 規会 | 高等学校における「親性準備教育」の在り方に関する研究 --キャリア教育としての「親性準備教育」実施モデルの提案-- 玉熊 和子 | 高齢者の健康寿命の延長に関する研究 --地域で暮らす高齢者が主体となった介護予防運動を推進する方策の提案-- 福岡 裕美子 | 文部科学省による放課後子ども教室事業のあり方に関する研究 --「子どもの社会教育の中核」としての視点から-- 猿渡 智衛 |
| 2010年 | 近代の青森県における企業家ネットワークの研究 --企業家ネットワークを構成する企業と企業家への視覚化、数値化の視点から-- 南 勉 | 近世日本の領主権力と民衆 --弘前藩領の災害対応を中心に-- 白石 瞳弥 | 現代中国の社会系教科における経済教育に関する研究 --社会主義市場経済下での経済認識と経済的価値観の統一的形成-- 徐 小淑 | 近世北奥地における造船界の歴史的動向 石山 晃子 | 特別市制運動の基層と今日の意義 --横浜市の神奈川県からの分離独立史の検証を通して-- 橋田 誠 | 明治前期における学制改革の要因研究 西 敏郎 |
| 2011年 | 東北日本内帯・北部の海跡湖における完新世の地形変化と湖水環境変遷 葛西 未央 | 知識の習得に重点を置いた道徳教育の研究 --人間行動の自動性に基づく授業開発-- 鐘水 浩 | 都道府県別の二酸化炭素森林吸収量・排出量及び産業廃棄物移動量推計等から考察した環境に対する地方の貢献 藤田 武美 | 街なかまちづくり活動におけるプロセス支援の方法論に関する研究 工藤 裕介 | 「民俗芸能」の「現在」 --生活の中の実践と客体化-- 下田 雄次 | 自律的動機づけに関する有機的統合理論と基本的心理的欲求理論の統合的検証 吉崎 聰子 |
| 2012年 | 成人吃音における合成音声を用いた在宅吃音訓練法に関する研究 小山内 策子 | 小学校社会科における価値判断の授業開発 --包摶主義を基軸とした価値類型の有効性-- 秋田 真 | 地域モビリティを育てる「Co交通」の形成に関する研究 村上 早紀子 | 青森県産食材の介護食への利用に関する研究 早川 和江 | 知的障害者スポーツにおけるマネジメントモデル構築に関する研究 --若年層ボランティアの活動継続性向上を企図して-- 大山 祐太 | 福祉をめぐるニーズと人材供給の構造的なミスマッチを越えて 熊谷 大輔 |
| 2013年 | | | | | | |
| 2014年 | | | | | | |
| 2015年 | | | | | | |
| 2016年 | | | | | | |
| 2017年 | | | | | | |

修了生からのメッセージ

研究者の能力は実社会でこそ必要になる

私は地元で、地域に伝わる祭や芸能に携わり、多くの課題と向き合ってきました。地域文化の問題を改善するには、担い手の立場からも、問題点を整理・分析する必要がありました。また、様々な立場の人々と対話を重ね、理解を得る必要性を感じていました。

このような能力を磨きたいと思い、私は本研究科に入学しました。現在では、地域文化の伝承活動を教材制作の立場から支援する仕事をしながら、本学で教壇に立っています。

具体的な社会経験を積んだ人間が、抽象度の高い思考や、ロジカルな説明の能力を向上させると、社会における仕事の幅も広がってゆきます。



下田 雄次さん
北東北無形文化遺産実践研究会 代表
弘前大学非常勤講師
2016年3月学位取得

スキルアップと自信に繋がったここでの学び

仕事を続けながらの学業に不安もありましたが、思い切って決断し入学してみると、私と同じ社会人も多く、遠隔地で働きながら学位取得に挑んでいる人も数名いました。授業は担当教員と時間を調整し受講しやすいよう配慮してもらえるため、無理なく充実した学びができました。博士論文の執筆にも先生方に最後まで親身なご指導をいただき、本当に感謝しております。

ここで得た学びは、仕事をしていく上でのスキルアップと自信に繋がっています。私の研究テーマである介護食の開発に今後もより意欲的に取り組み、その成果を地域に還元していきたいと思います。



早川 和江さん
弘前医療福祉大学
短期大学部
生活福祉学科 教授
2017年3月学位取得

人口減少に対応した地域づくり

2014年から青森県とともに、県内全域で、人口減少が心配される集落の地域づくりに取り組んでいます。具体的には、①人口動向の調査や地域の資源・課題の発掘、②それらを元にした、地域活性化のための新たな取り組みや組織の創出、③高度な専門的支援を必要とする取り組みへの専門家派遣、④大学生が地域に滞在して活性化の提案を行うインターンシップの企画・運営などを実施してきました。研究科の教員が、院生、客員研究員、他学部教員と協働して地域づくりの支援をしつつ研究を行っています。また、今後の地域づくりの方針を議論するためのシンポジウム等も開催しています。

平内町との取り組み

藤沢は平内町の内陸部にある、人口約300人110世帯、旧奥州街道や16世紀に築かれた城跡などの歴史的痕跡をとどめた農業集落です。スーパー、病院等が徒歩圏内にあり青森市内に30分程度の距離に位置します。コミュニティセンターを拠点に、町内会、公民館、婦人会、子供会などによる地域活動が盛んであります。2014年から5年間、教員2名が平内町役場と連携し、継続して住民主体の地域づくりを支援しています。

1年目にはワークショップ、現地調査や勉強会を実施開催して集落の将来イメージや活動方針を策定し、地区を元気にする数多くの活動アイデアが生まれました。また、集落の取り組みを発信する小冊子も制作しました。2年目には「藤沢活性化協議会」が設立され、健康教室やかご編み教室の実施、ハタケシメジの栽培などの新たな活動がスタートしました。研究科では活動の進展状況の検証のためのワークショップや新たな活動立ち上げに向けた勉強会の開催などを支援しました。3年目には客員研究員2名が中心となり、地元農作物直売所づくりを支援し、国道沿いの空き倉庫を改装した「直売所ふんちゃん」がオープンし、また、獅子舞の継承に向けて囃子の楽譜作成や後継者育成のための練習会が実施されました。この2年間は、大学生が滞在して地域活性化のアイデアを企画する「地域づくりインターンシップ」を実施し、教員・客員研究員がプログラム作成や運営をサポートしています。

今年度は8月末から1週間、大学生5名が藤沢に滞在しました。地区で実施されている活動への参加、農産物の収穫体験、子どもやその親達との交流を通じて、暮らしの中で感じ、考えたことを元に「直売所の集客力向上プラン」と「世代間交流と次世代の地域活動担い手育成プラン」の作成に取り組みました。報告会では20名の住民が耳を傾ける中、学生から直売所掲示用看板の試作品の発表、世代間のコミュニケーションを促す新たなイベントの立ち上げなどの提案がなされました。全日程終了後、参加学生から「人生で一番大事なことを学んだ」、「今後も藤沢地区の活性化に携わっていきたい」などの感想が聞かれました。



現在、1年目末に生まれた活動アイデアの大半が実施され、ハタケシメジ栽培や直売所の運営も軌道に乗っています。研究科では、地区的活動をどうやって次の世代の暮らしに繋いでゆけるかを見出すべく、今後も引き続き藤沢に関わってゆく予定です。

地域住民の声

弘前大学が「ふんちゃん(藤沢)」にあるようだ

Uターンしてきた藤沢への恩返しの想いで、県の事業への応募時から藤沢地区の活動の事務局を担っています。開設された直売所は、会員の創意工夫に加えインターンシップの学生の協力もあって売れ行きがよく、自信になっています。少子化は直ちに解決しませんが、未来に向けて環境が少しづつ整い、次代に期待できるようになります。弘前大学の教員や研究員の皆様は、我々の意見をうまく整理して、解決策へと導いてくれたり、それが藤沢の明るさに繋がっていると実感します。



藤沢活性化協議会
事務局
森田 泰男さん

むつ市との取り組み

本研究科では、弘前大学と包括連携協定を結んでいるむつ市と協力し、2017年以降、同市の脇野沢地区の地方創生拠点づくりに教育・研究・社会貢献の全侧面から関わっています。同地区は平成大合併でむつ市に統合後、10年間で人口減少率が30%を超え、周辺地域に比べても10ポイント以上下回り、小中学校の統合や道の駅の機能縮小なども続き、孤立感が高まっていました。そこでむつ市では、休止中だった公営の脇野沢温泉とそれに附帯する温室を地方創生拠点として再生することを計画しました。しかし、これまで温泉の顧客だった住民が新施設を主体的に運営することが条件であり、住民間の合意形成はなかなか進みませんでした。このような状況下で、むつ市は、青森県の地域づくり関連の事業を活用して本研究科に協力を依頼しました。

2017年度は、計画期間1年という短期間で、どのようにして住民参画型の拠点形成が可能か、アクション・リサーチを進めました。計14回のワークショップを開催し、その間、開業時期の延期が決断され、部署横断的な協議・支援体制を構築したむつ市との連携もあり、8月には運営主体となる住民組織「わきのさわ温泉湯好会」が結成されました。同月、県の「地域づくりインターンシップ」を通じて県内外の学部・大学院生11名が滞在して住民の機運も高まり、翌年4月の開業を迎えることができました。

開業後の2018年度は、短期間のワークショップでは練り切れなかった温泉と温室の熱源について、地域に豊富なバイオマス資源の活用可能性を探る研究にも着手しました。県の地域エネルギー資源活用に関する事業の助成を得て、本学地域戦略研究所や国・森林事務所下北管理署とともに脇野沢の国有林の利用可能性を探っています。また、11月に開催した研究科公開セミナー(後述)では、以上の取り組みの解説および温泉施設の視察に加え、脇野沢地区をフィールドとしたエクスカーションを実施しました。



平川市との取り組み

本学と包括連携協定を結んでいる平川市と協力し、2016年度以降、研究科の教員が同市碇ヶ関地区の活性化と地域活動の担い手となる若者育成事業を支援しています。

碇ヶ関地区の活性化においては、受入が予定されていた「地域おこし協力隊」の受入態勢の構築をサポートして、若手からベテランまで地域内のキーパーソンによる組織づくりとその活動の形成に取り組んでいます。初年度末に「碇ヶ関・地域おこし協力隊応援協議会」が結成され、既に採用されていた協力隊員とともに道の駅を舞台にしたイベントを立ち上げていきました。また、東京の移住・交流イベントで協力隊募集を行うなど、地域関係者主体の募集活動を展開し2名の隊員が採用されました。今年度は、応援協議会が隊員と地域のつなぎ役となり、隊員が構想するアトリエやカフェなどのプランの実現をサポートし前者は開業にこぎつけました。8月後半には応援協議会が受入主体となって「地域づくりインターンシップ」を行い、全6名の学部生・大学院生が碇ヶ関地区に滞在しました。協力隊員によるコーディネートもあり、地域活動の体験に加えて、個々のインターン生の関心に沿ったデータ収集中心の実習が進められ、複数の地域活性化策が提案されました。

地域活動の担い手となる若者の育成事業では、意欲があつてもなかなか一步を踏み出せていない若い人材の発掘・育成・活動支援に取り組んでいます。初年度は、2回のワークショップを開催し、地域づくりに興味のある若者の発掘と活動アイデアづくりを行い、その成果を広報誌「ひらかわ わ!わ!わ!」にまとめました。2,3年目は、興味のある活動アイデアに基づくチームを結成し、チーム毎に活動内容を検討するためのミーティングや調査、ワークショップなどを実施しています。平川市が目的地となるような取り組みを行う「目的地平川市」、市内の若手農業者をPRする「NEO農家プロデュース」、若者が気軽に集まれる場所を創出する「フリーハウス!!」の3プロジェクトが現在進行中です。



地域学系大学・学部等シンポジウムの開催

本研究科では、全国10国立大学で構成される地域学系大学・学部等連携協議会に2014年から参画しています。毎年、各大学持ち回りで開催されるシンポジウムでは、17年9月、鳥取大学でのパネリストとして招かれたほか、18年9月には本研究科が主宰として企画・運営を行いました。

本研究科主宰のシンポジウムでは、「地域系学部・大学院の本来の姿とは：眞の文理融合による地域実践とは何か」をテーマに掲げ、先進的に取り組んできた鳥取大学、新学部を軸に相互に参画するなど連携を深化させることができました。

乗せつつある愛媛大学、まさに新学部立ち上げを進める宮崎大学のほか、本研究科から教員3名が座長およびパネリストとして意見交換を行いました。結果として、①現在、全国的に問われている教育の質的保証、②地域との関係構築に必須な3つのR=Repeat, Respect, Rock(愛媛大・松村暢彦氏)、③地域系部局の再編圧力への抵抗戦略など、それぞれ重要な論点が具体的に掘り下げられ、次年度以降、協議会として部局の外部評価に相互に参画するなど連携を深化させることができました。



シンポジウムの様子

公開セミナーの開催

2016年度より、地域の社会人に大学院レベルの教育研究分野の学びの機会を提供するために公開セミナーを開催し、博士後課程の授業カリキュラムレベルの講義、地域づくり現場のまちあるき、講義内容や研究科入学等に関する相談会を実施しています。県内ののみならず北東北や東京、北海道から地域課題解決に日々取り組んでいる多くの社会人が参加しています。また、本セミナーでは毎年、地域課題に着目したテーマを設定し、実施会場を弘前市(2016年)、八戸市(2017年)、大館市・むつ市(2018年)と広げ、より多くの社会人に参加いただけるよう、意欲的に取り組んでいます。セミナー受講をきっかけに、研究科に入学した方や聴講生として研究を始めた方もおり、大変有意義なセミナーとなっています。

むつ市での開催

「下北から日本の未来を探る!」をテーマとし、講義とエクスカーションからなるセミナーを開催しました。初日の脇野沢地区を舞台としたエクスカーションでは、研究科教員が特徴的地形について解説した後、下北のジオパークについての講義を行いました。また、地域運営組織によって運営・経営される「コミュニティセントロ・脇野沢温泉」についての事例紹介の後に、現場視察を行いました。2日目には、アグリ・食分野における地方創生の取り組みや、陸奥湾水産物の新たな価値の見せ方の提案、機能性を有する地元食品素材の利活用について、3つの講義を行いました。社会人に加えて、意欲のある高校生も参加し、「今後、地域に対する様々な視点からのアプローチや考え方を活用していかたい」「今後も文理融合型のセミナーを開催して欲しい」などの意見をいただきました。



大館市の開催

「都市を再興する!」をテーマとし、「未来に向けてまちを育していく取り組みが持つ可能性性」、「持続可能な地域には稼ぐ力が必要」、「新しいコミュニティによる多様なまちづくり活動の展開が都市空間を魅力的にする」、「大館市にしかない音風景に新たな再興の可能性がある」など、講師それぞれの視点により2日間で4つの講義を行いました。また、今年度は同日開催の「大館市歴史まちづくり実践発表会(大館市主催)」に参加し、歴史や文化、風土からの学びをまちづくりに活かしている、市民の活動報告を聴講しました。加えて、大館市長および職員の案内のもと、大館駅周辺のまちあるきを実施し、リノベーションによって“にぎわい創出の場”として活用されている複合施設等を見学し、大館市の魅力を受講生と共に共有しました。



大館市長の案内によるまちあるき



複合施設わっぱビルディング視察



講義風景

自治体職員の声

大館というところ

大館(おおだて)は、弘前と約50kmの距離にあり、大学や病院などの教育や医療をはじめ、産業や文化と密な繋がりがあります。研究科長や客員研究員の方には、かねてより当市のまち育てでご尽力いただいていました。

今セミナーでは、当市主催の「歴史まちづくり実践発表会」と連携し、参加者が福原大館市長と「まち歩き」され、五感でまちの風土を感じていただきました。



大館市 まちづくり課
課長
齋藤 和彦さん

大館市公開セミナー「都市を再興する!」

| 開催日: 平成30年11月10日~11日 | |
|--------------------------|--|
| 講義① 小 岩 直 人(教育学部・教授) | 下北ジオパークのジオサイトから地球を学ぶ |
| 講義② 平 井 太 郎(地域社会研究科・准教授) | 脇野沢の「小さな拠点」から未来を展望する |
| 講義③ 内 山 大 史(地域社会研究科・教授) | 「青森型地方創生サイクル」を考える -アグリ・食を中心に- |
| 講義④ 福 田 覚(地域戦略研究所・准教授) | 北日本の水産資源を利活用した地域振興 -津軽海峡クリスマル(食通回廊)の提案- |
| 講義⑤ 加 藤 陽 治(弘前大学・特任教授) | 下北地域農林水産物の栄養・機能性 |

開催日: 平成30年10月27日~28日

| | |
|----------------------------|--|
| 講義① 村 上 早紀子(地域社会研究科・客員研究員) | 人口が減る地域は、幸せを求めてはいけないのか |
| 講義② 佐々木 純一郎(地域社会研究科・教授) | 地域の稼ぐ力と持続可能性-地域ブランドを中心 |
| 講義③ 土 井 良 浩(地域社会研究科・准教授) | まちづくりを再構築する、視点と方法 |
| 講義④ 今 田 匠 彦(教育学部・教授) | サウンドスケープによる地域アート・プロジェクトの実践 -音楽のユニヴァーサルデザインに向けて- |

NPOひろだいりーサー

特定非営利活動法人ひろだいりーサーは、地域社会研究科の教員や大学院生そして地域の皆さんのが会員です。弘前大学学長が特別顧問を務めています。自治体や商工団体そして財団法人などから依頼され、地域づくりのワークショップを開催する他、買物弱者などの課題解決をテーマとした調査を行っています。NPO活動を通じて地域社会研究科に入学した方もいます。地域の皆さんと弘前大学が力を合わせる機会をひろだいりーサーは創っています。



三八地元民局委託
青森県地域共生社会づくり促進事業
「三戸駅前づくりMAP書き込み事業」

弘前大学大学院地域社会研究科の
詳細はHPからご確認いただけます。

- 講座について
- 授業内容・シラバス
- 学位論文関係
- 担当教員一覧
- 入試・入学情報
- 研究紀要等刊行物



地域社会研究科のHPは
こちらからどうぞ >>



地域社会研究科案内(PDF)を
ダウンロードいただけます。



ダウンロードは
こちらからどうぞ >>



お問い合わせ

- 地域社会研究科については 弘前大学学務部教務課まで ☎ 0172-39-3960
- 入試については 弘前大学学務部入試課まで ☎ 0172-39-3973 / 3193

弘前大学大学院 地域社会研究科 ニュースレター
弘前大学と地域づくり 第10号

発行日 | 2019年3月13日

編 著 | 北原 啓司、佐々木 純一郎、内山 大史、平井 太郎、土井 良浩、武田 奈央子

発 行 | 弘前大学大学院地域社会研究科

036-8560 青森県弘前市文京町1番地
<http://www.hirosaki-u.ac.jp/Ttag/>